



米國人ダブリユール、エツチ、エヴリー 叙勲ノ件
 右謹テ裁可ヲ仰ク
 大正十年十二月八日
 内閣總理大臣子爵高橋是清

内閣



賞勳局 四〇八

内閣 三〇

十年十二月八日 裁可

大正十年十二月六日 内閣會議

内閣書記官

内閣總理大臣

賞勳局總裁



東洋汽船株式會社副總支配人米國人ダブリユ
 一、エツチ、エヴリ一叙勲ノ儀調査スルニ右者明
 治三十二年九月東洋汽船株式會社、桑港航路
 開始後同社ニ入り副支配人トナリ常ニ我國ニ
 好意ヲ有シ日露戰役當時敵國ノ貨物カ米國或
 ハ他國船ニ依リテ米國ヨリ續々出荷スルニ當
 リ其ノ情報ヲ我官憲ニ提供シ我領海ニ於テ屢
 々之ヲ捕獲スルコトヲ得セシメ又我實業代表
 團カ渡米スルニ際シ視察上多大ノ援助ヲ與ヘ
 又我海運界ノ發達ニ大關係ヲ有スル米國航海
 獎勵法ノ制定セラレントスルニ當リ其ノ通過
 ヲ沮止スルニ努メ或ハ我邦人ノ米國上陸問題
 ニ關シ日本入ト米國官憲トノ間ニ屢々錯綜セ
 ル問題ノ惹起セル毎ニ圓滿ナル解決ヲナスニ
 盡カシ加之米國各地駐在我領事官ニ對シ種々
 機密調査ヲナシ其ノ資料ヲ提供シ尚在米帝國
 大使館、爲ニ種々便宜ヲ供與セリ又同人ハ今

賞勳局

日ニ至ル迄二十餘年間我海運ノ發展竝對米貿易ノ伸暢ニ貢獻シ或ハ我船舶ニ對スル米國人ノ反感ヲ緩和シ或ハ米國鐵道業者トノ間ニ於ケル連絡輸送ノ實ヲ擧グルニ盡カシタルノミナラス歐洲戰役ニ際シ船腹ノ不足ト貨客ノ激増スルニ當リ之ヲ調節ニ努カスル所アリ多年我海運界ニ貢獻シタル等我國ノ爲ニ效セル功績顯著ナリトス依テ外務大臣上奏頭書ノ通叙勲被仰出可然哉此段允裁ヲ仰ク

勳四等旭日小綬章

東洋汽船株式會社副總支配人

米國人　ダブリュー、エツチ、エヴリ

右者明治三十二年九月東洋汽船株式會社ノ桑港航路開始後同社ニ入
リ桑港出張所主任トナリ次テ同社副支配人ニ進ミ同社業務ノ樞機ニ
參與シ爾後今日ニ至ル迄二十有餘年間我海運ノ發展並對米貿易ノ伸
暢ニ貢獻シタルコト尠カラズ同人ハ海運業上特殊ノ手腕ト經驗トヲ
有シ且業務ニ極メテ忠實ニシテ入社後我海運ノ發展上米國汽船會社
トノ間ニ業務上ノ提携ヲ行ヒ或ハ我船舶ニ對スル米國人ノ反感ヲ緩
和シ又或ハ米國鐵道業者トノ間ニ於ケル連絡輸送ノ實ヲ舉クル等多
大ノ力ヲ盡シタルノミナラス歐洲戰役ニ基ク船腹ノ不足ト貨客ノ激

外務省

増トニ伴ヒ我對米交通貿易カ動モスレハ其圓滑ヲ缺キ之カ緩和ノ必
要上米國航路ニ從事セル米國船數隻ヲ本邦ニ入手セントスルノ議ア
ルヤ同人ハ專ラ之カ折衝ノ任ニ膺リ以テ戰時船腹ノ調節ニ資スル所
アリタル等多年終始一貫獻身の努力ヲ以テ我海運界ノ爲ニ效シタル
功績顯著ニ有之候趣ヲ以テ敍勳ノ儀遞信大臣野田卯太郎ヨリ申立有
之候間此際右功勞ヲ御表彰被遊頭書ノ通敍勳被仰出候様仕度此段謹
テ奏ス

大正十年八月十九日

外務大臣伯爵　内　田　康



内閣文書 一三三六

人普通第三三六號

大正十年八月十九日

外務大臣伯爵 内田 康 哉

内閣總理大臣 原 敬 殿



米國人エヴリー・絞動ノ件

東洋汽船株式會社副總支配人ダブリュー、エツチ。エヴリー・絞動ノ儀別紙ノ通上奏致候間可然御取計相成度此段申進候也

外務省

大正十年八月二十日